

2024年度 事業計画書

特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会

1 事業実施の方針

新型コロナウイルス感染症対策による行動制限の解除を受けて対面での活動や、海外出張を含め活発化した昨年度の活動を引き続き、今年は創立 30 周年に当たる年であることを念頭に、来年 TICAD 9 が日本で開催されることも踏まえ、新たなネットワークづくりを含めて、以下の活動を行う。

1) 在日アフリカ人共生・協働事業

アフリカにルーツをもつ子ども・保護者を対象とした「アフリカンキッズクラブ」を運営し、アフリカ文化に触れ、楽しみ、自信につながる場を作る。また、ユースが主体的に運営する活動に協力し、交流や公開イベントを実施する。その他、メディアや講演、SNS などで自分たちの思いや経験を伝えていく。在日アフリカ人の団体、なんみんフォーラム、移住連などと連携・協力して、難民・移民の人々と共に活動しながら、必要な情報提供や支援を行う。

2) ネットワーク形成事業

日本の国際協力 NGO や SDGs に取り組む団体が参加するネットワークに参加し、情報収集や情報交換の機会とする。TICAD-NGO 連絡グループの事務局、国際保健分野では国際保健のための市民社会ネットワークの代表を務め、日本政府への政策提言とともに、特に G7 イタリア・サミットや G20 ブラジル・サミットに向けて、国内外の市民社会と連携した取り組みを行う。アフリカに資金の 7 割を拠出しているグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第 8 次増資が 2025 年に予定されているが、これに向け、日本の NGO 等がグローバルファンドと共にエイズ・結核・マラリアおよび保健システム強化に途上国の現場で取り組むことを推進するため、市民社会参入のためのセミナーの開催や、個別のコンサルティング、国レベルでの連携強化など、具体的な取り組みを積極化する。また、グローバルファンド活動者ネットワーク（GFAN）や GFAN アジア太平洋、GFAN アフリカ、APCASO 等と連携し、三大感染症への世界的な取り組みを日本から担う。公正な医療アクセスを求める国内外の運動に積極的に参加し、ネットワークを強化する。

グローバルファンド等への拠出促進や、アフリカにおける医薬品の研究開発・製造能力強化に向けた東アジア諸国の連携促進を目指して、東アジア諸国の市民社会ネットワークを強化する。韓国と日本の市民社会の協働を含め、東アジアからの国際保健政策の提言に資する市民社会プラットフォームの基盤を強化する。

3) アフリカ調査・研究事業

国際保健政策に関する最新動向について、毎月調査を行い、月に2本の記事にまとめて AJF ウェブサイトで発表する。また、執筆した記事と、HIV/AIDS に関する最新動向についての記事4本をまとめたメールマガジン「グローバル・エイズ・アップデート・プラス」を月刊で発行する。また、国際保健政策やその実施の最新動向について、日本の国際保健 NGO31 団体でつくる「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」（旧・GII/IDI 懇談会 NGO 連絡会）の有志にて定例で意見交換会を開催し、必要に応じて国際保健に関する各市民社会団体の知見を共有する勉強会を開催する。

食料・農業に関する調査・研究は、FAO の報告資料を研究する「FAO の資料を読む会」を継続して行い、「世界食料デー」月間に向けての他団体と協力しての啓発活動を実施する。また、土壌のリサイクルに関する南アフリカ調査に協力し、現地団体との調整業務を行う。

アフリカ熱帯林の課題に関し、野生生物保全および森林環境保護について、日本での啓発事業を進める。イベントの参加やチラシの配布、関連セミナー等の主催や告知、記事紹介等による普及啓発活動や情報提供を行う。

その他、パンデミック条約の制定や国際保健規則の改正等に関して、交渉プロセスをモニタリングするとともに、各種の多国間交渉などにおいて提案されている様々な事項についての調査を行い、公正な医療アクセスの実現に向けた各種の方策について研究し、提言に結びつける。

4) 政策・提言事業

アフリカを含む世界レベルでの公平な保健医療アクセスの実現に向けて、昨年の広島サミットを引き継いで、G7 イタリアサミットに向けて取り組む「市民7」（Civil7）と連携するとともに、とみに重要性を増すG20のブラジルサミットについても、「市民20」（C20）を支援し、国際保健分野での政策提言の国内取りまとめを行う。多セクターの政策提言グループとの対話を行い、G7による国際保健政策について、特に「公平な医療アクセス」の観点で、市民社会の声が反映されるように努める。同様にWHOを中心に行われているパンデミック条約策定・国際保健規則改定に向けて、なるべく公平な医療アクセスを明確に示した条約案が採択されるよう努力する。

一方、2025年に開催されるTICAD9に向けて、日本・アフリカの市民社会と共に、保健・医療アクセス、債務・開発資金の課題や、食料問題・環境問題などを含む開発課題、また、アフリカン・ディアスポラの参画促進などについて、政策の実現を目指して提言活動を行う。

映画「新型コロナが映すいのちの格差」を活用しつつ、国内では多様なセクターと、海外ではグローバルな市民社会と連携して、公正な医療アクセスに関する啓発活動を行う。

主権や自己決定権を求めるアフリカの人々の取り組みへの協力の一環として、西サハラの主権回復に向けて、日本の市民社会における支持拡大や、アフリカ連合の加盟国であるサハラ・アラブ民主共和国の TICAD への招待が実現するよう、関係団体と協力して働きかける。

5) アフリカ理解促進

会報『アフリカ NOW』の発行、対面イベントでのブース出展やセミナーなどの各種イベントの企画・開催、会員交流会の開催を行う。ウェブサイトやウェブマガジンの更新・改善、SNS への投稿などを通じて、アフリカ理解促進のための発信を行う。

6) アフリカ支援事業

アフリカの政治的・経済的・社会的困難や環境破壊の危機などに対するアフリカの人々の自発的な取り組みへの支援・協力のための情報収集・提供、ウェビナーの開催などを行う。

7) その他：上記事業を円滑に進めるため適切な事務局運営を行う。

委員会について、これを創設した 2020 年度時と検討すべき直近の課題が変わってきているため、2024 年度は新理事のもとで必要に応じてタスクフォースとしての役割を担うよう委員会を再編成する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用 20,634 千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
在日アフリカ人共生・協働事業	「アフリカンキッズクラブ」では、子どもや保護者が集い、共に楽しみ、経験・悩みを共有する場を作る。また LINE グループなどで情報交換を行い、子育てや髪の手入れなどについてサポートし合っていく。ウェブサイトや SNS を通じて活動や情報を発信していく。	2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	東京 各居住地	13	アフリカにルーツを持つ子ども・若者・保護者、在日アフリカ人、市民	500	520
	「アフリカンキッズクラブ関西」では、アフロダンスやアフリカ音階の体験イベントなどを行い、子どもたちが集う場を作る。「アフリカンキッズクラブ東海」では野外でのイベントなどを企画していく。	2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	関西、東海 各居住地	15		400	
	アフリカにルーツをもつユースによる交流会やイベントを実施する。また大学での講義、情報発信	2024 年 4 月～ 2025 年 3 月	東京 各居住地	10		700	

	などを行い、経験や思いを共有し、マイクロアグレッション、レイシャルプロファイリングなどの社会的課題について考える機会を作る。						
	在日アフリカ人コミュニティと連携・協力し、セミナーやイベントなどを通し、アフリカ理解の促進、交流の輪を広げていく。また、在日アフリカ人のニーズに応え、情報提供や情報交換を行う。なんみんフォーラムや移住連等と連携し、生活に困難を抱える難民・移民への支援、人権擁護や政策提言などを行う。	2024年4月～ 2025年3月	東京 各居住地	12		800	
ネットワーク 形成事業	国際保健のための市民社会ネットワーク「グローバルヘルス市民社会ネットワーク」やJANIC、SDGs等の市民社会ネットワークに参加し、連携の強化や情報の共有を行う。G7、G20や国連等のイベントの機会にアフリカの市民社会を含む世界の市民社会との連携を強化する。	2024年4月～ 2025年3月	東京、国内外の団体活動地	4	国際協力団体、国際協力に従事する個人、国際保健課題に関心のある市民	700	1,751
	TICAD-NGO 連絡グループの事務局を担い、TICAD 閣僚会議やTICAD9 に向けた取り組みを検討する。	2024年4月～ 2025年3月	東京	5	国際協力団体、国際協力に従事する個人、市民	70	
	国内外、個人のネットワークづくりとして夏と冬の1回ずつを目安に、交流会を開催する。	2024年4月～ 2025年3月	東京 各居住地	6	AJFの会員や紹介をうけた市民	70	
アフリカ調査・ 研究事業	三大感染症に取り組む東アジア市民社会のネットワーキングを進め、今後の連携の方法を検討する。国際保健政策の最新動向について調査し、定期的に記事を執筆する。月一のペースで、メールマガジンのグローバルエイズアップデートプラスを発行する。	2024年4月～ 2025年3月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	400	3,677
	世界食料デーの呼びかけ団体として他市民団体、FAO、横浜市とともにイベントを開催する。FAOの資料を読む学習会を継続し、アフリカの食と農の現状について情報発信やセミナー開催を行う。土壌のリン循環に関する南アフリカ調査に協力し、現地団体との調整業務を行う。	2024年4月～ 2025年3月 世界食料デーは 10月	東京 神奈川 南アフリカ クワズル・ナタール州	12	国際協力、食料・農業に関心のある市民 南アフリカの農民	300	
	アフリカ熱帯林地域での森林環境、野生生物、先住民族についての調査研究に基づき、地球環境の問題、関係する先住民族の社会問題等について記事紹介等による啓発活動を実施する。	2024年4月～ 2025年3月	東京	3	国際協力、環境保全に関心のある市民	300	

政策提言事業	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現や、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第8次増資会合での十分な増資金額の確保に向けて、必要な資金拠出を行うよう、国内外の団体と連動して提言を行う。	2024年4月～ 2025年3月	東京	5	国際協力、国際保健課題に関心のある市民	100	13,166
	「公正な医療アクセスを世界の人々に！連絡会」の事務局を担い、公正な医療アクセスを求める運動に取り組む国内、海外の市民社会と共にパンデミック条約交渉等様々な機会を通して取り組みを行う。	2024年4月～ 2025年3月	東京	5	国際協力、保健課題に関心のある市民	500	
	西サハラなど主権や自己決定権が脅かされているアフリカの地域や人々、団体との連携を強化し、啓発のためのセミナーやイベントの開催に協力して日本の政策の変化につなげる。	2024年4月～ 2025年3月 セミナー開催は年に3回程度	東京	5	国際協力に関心のある市民	300	
アフリカ理解促進事業	会報『アフリカNOW』を3回、冊子とネット（PDF ファイル）で発行する。ホームページで最新号とバックナンバーを紹介し、販売する。	2024年4月～ 2025年3月 会報は8月、11月、2月	東京	8	会員およびアフリカに関心のある市民	900	572
	ウェブサイトやSNSを更新し、AJFの活動とイベント等を紹介するとともに、多様な情報や資料などを提供する。	2024年4月～ 2025年3月	東京	8	ウェブサイト訪問者	7000人/月	
	アフリカの社会・文化やアフリカに関わるさまざまな課題を取り上げ、話し合い、交流する場として、一般公開のセミナーなどを開催する。国際協力関連のイベントに出展する	2024年4月～ 2025年3月	東京、他	5	会員およびアフリカに関心のある市民	50000	
	メールマガジン「AFRICA ONLINE」を定期的（毎週月曜）に発行し、アフリカ関連イベント情報等を提供する。	2024年4月～ 2025年3月 毎週月曜	東京	5	国際協力関連のイベントの参加者	2500	
	アフリカに関する重要なトピックについての紹介を「アフリカニュース発掘部」として行い、メーリングリストやウェブサイトを通じて月1回のペースで発信する。	2024年4月～ 2025年3月	東京	4	市民、市民団体、学生	300	
アフリカの政治的・経済的・社会的困難や環境破壊の危機を解決するためのアフリカの人々の自発的な取り組みへの支援・協力を目的とした情報収集、発信等を行う。	2024年4月～ 2025年3月	東京	5	アフリカやグローバルな課題に関心のある市民	100	500	

※共通事業費 448千円